

## 第 26 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザーボード 議事要旨

1 日 時：平成 30 年 6 月 5 日（火） 14：00～15：50

2 場 所：総務省 8 階第 4 特別会議室  
千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎第 2 号館

3 出席者：（委員）

- ◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
- 戸谷 好秀（独立行政法人統計センター顧問）
- 兼川 真紀（弁護士）
- 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
- 斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
- 名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

- 横田 信孝 官房審議官
- 稲垣 好展 管理室長

4 議事次第

- （1）「平成 29 年度平和祈念展示資料館 運営業務実施報告書」の説明
- （2）「平成 30 年度平和祈念展示資料館 運営委託業務のポイント」の説明
- （3）「平成 30 年度平和祈念展示資料館 運営業務実施計画」の説明

5 議事要旨

- （1）「平成 30 年度平和祈念展示資料館 運営業務実施報告書」の説明  
委託業者から説明後、意見交換が行われた。
- （2）「平成 30 年度平和祈念展示資料館 運営委託業務のポイント」の説明  
資料 2 に基づき、事務局から説明後、意見交換が行われた。
- （3）「平成 30 年度平和祈念展示資料館 運営業務実施計画」の説明  
委託業者から説明後、意見交換が行われた。  
委員の主な発言等は以下のとおり。

○ いろいろと工夫して資料館を運営してきた成果が、来館者数として表れている。

○ 海外からの引揚げを体験された著名な漫画家の描いた漫画を媒体とした展示会を大学とコラボして行う初の試みは若い人たちへ伝えるよい取組である。今後も、いろいろな大学と協力して展示会などを行っていただきたい。

- 外国人来館者にもアンケートを行うと、来館動機や情報入手の手段が分かり今後の広報に活かせるため、よいのではないか。
- 資料館では、東京近郊の戦争体験者に語り部として活動していただいているが、他府県の方にも資料館でお話いただくと、様々な戦争体験を聞く機会が増えてよいだろう。
- 語り部には90歳を超える人もいるので、語り部お話し会のために来館していただくことは、今後さらに難しくなるだろう。語り部お話し会以外の方法も引き続き検討していただきたい。
- 展示の歴史的背景がもっと分かるように説明を見直していくことは大事であるが、説明内容を変える場合は慎重さも必要である。
- 展示をきっかけにして、より詳しく知りたい人のために図書を使って、調べ、考えてもらう方法を充実、提供していくとよい。
- 近現代の歴史を扱う資料館は少ないため、資料館は子どもたちに戦争について学び、考えるきっかけを与える大切な存在である。引き続き、学生を含めた団体の誘致に努めていただきたい。
- 若い人たちは身近なところに戦争体験者がいないため、実感として戦争のことを理解することが難しいと思う。引揚者たちがもたらした食文化など身近なことを糸口にすると、若い人たちが戦争について学ぶ動機になるのではないか。
- 館内展示の写真撮影を可能にしたことは、若い人同士で、資料館での体験、感じた思いなどを SNS などで共有し合えるのでよいことである。スマートフォン等に向けた効果的な広報、情報提供をさらに進めると、若い人たちの来館に繋がるのではないか。
- 戦争関連の演劇等の会場でチラシを配布し、併せて資料のレプリカも展示できるように努めると、興味のある人に向けたより効果的な広報になるのではないか。